

# 榊原病院

## Monthly

### Vol.65

### 2023.October

この病院で最も大切なひとは治療を受ける人である  
The most important person in this hospital is the patient.

独立行政法人国立病院機構 榊原病院  
National Hospital Organization SAKAKIBARA Hospital

## 院長

鬼塚 俊明(おにつか としあき)

### 略歴

1991年 九州大学医学部卒、九州大学精神科神経科入局  
2000年 米国ハーバード大学医学部精神科研究員  
2004年 九州大学病院精神科神経科助教  
2008年 九州大学病院精神科神経科講師  
2015年 九州大学大学院医学研究院精神病態医学(精神科神経科)准教授  
2021年 九州大学大学院医学研究院神経画像解析学教授  
2023年 国立病院機構榊原病院特命副院長を経て、院長就任



## 診療科

- 一般精神科
- アルコール・薬物依存症
- 専門外来
- こころのリスク外来

## 病床数 175床

- 精神科病棟 157床
- 医療観察法 18床
- 強度行動障害ユニット

病院理念 この病院で最も大切なひとは治療を受ける人である

## ご挨拶

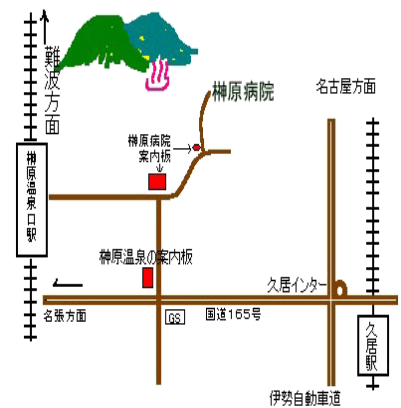
院長 鬼塚 俊明

この度、令和5年10月1日付けをもちまして榊原病院院長に就任しました鬼塚俊明と申します。私は、平成3年に九州大学医学部を卒業し、直ちに九州大学精神科神経科に入局しました。研鑽を積み、米国に留学後、平成16年より令和5年4月まで九州大学病院にて、診療・研究・教育に携わってきました。診療においては、主に統合失調症・気分障害・てんかんの専門外来、発達障害の診断・評価、セカンドオピニオン外来などに従事してきました。

精神科は、児童から老年期まで、生物学的な面から心理学的な面まで多様な領域の経験が必要です。九州大学精神科は、伝統的に森田療法や行動療法など精神療法でも有名な教室で、入局以降、十分なトレーニングを受けており、心理療法にも精通しています。一方で、一人で経験できることは限られているため、標準治療である治療ガイドラインに精通する必要もあります。現在、精神科治療ガイドライン普及プログラムの研究のコアメンバーに入っており、私は統合失調症のガイドラインに沿って、全国の処方が行われているか検証しています。具体的には、持続性抗精神病薬注射剤が適正に使用されているかを検証しています。このように治療ガイドラインの普及に注力しています。

精神疾患は慢性的経過をたどることが多いのも事実ですが、近年では、前駆期を含む初発患者に対する適切な早期介入により、長期予後が改善されることがわかってきました。私自身は、統合失調症のリカバリーについて、日本の統合失調症治療の主要メンバーとともにその意見をまとめて世界に発信しました(Onitsuka et al., Current concepts, findings, and future research directions toward recovery in schizophrenia. PCN, 2022)。

今後も、精神疾患の早期診断・早期介入を目標として積極的な診療活動と啓蒙活動を推進していく所存です。多岐にわたる精神科の問題に対応するために、精度の高い診断と高度な治療が可能な中核機関として、医療機関はもちろん関係諸機関とも密に連携し、地域社会の中で信頼される施設として更に当院を発展させたいと思っています。



電車・バス/ 近鉄久居駅下車 三交バス  
(車庫前行き) 約30分

自動車/ 久居インターより約20分

マイクロバス/ 久居駅より直通バス(約25分)



## 地域医療連携室だより

### 〈医療福祉相談のご案内〉

経済的な心配、福祉サービスの利用、退院後の生活など病気によって生じた生活上の困り事について、精神保健福祉士がご相談に応じます。相談をご希望の方は、主治医、看護師及び医事受付まで申し出てください。

## ゆうはあと訪問看護ステーション

令和元年6月に「ゆうはあと訪問看護ステーション」を開設しました。利用者様が地域で安心して暮らしていけることを目標として訪問看護を提供しています。症状の観察や相談・お薬の管理・通院継続の支援・対人関係・コミュニケーションへの支援など、心身の回復のお手伝いを目的として行っています。

私たち「ゆうはあと」は、あなたの療養、そして暮らしを支えます。少しでも豊かに、少しずつ豊かになりますようにここで支えます。

## 治療抵抗性精神疾患への医療

### 〈クロザピンの治療状況〉

治療抵抗性統合失調症に対して、平成26年10月に1例目の投与を開始し、令和5年9月までに全症例は144例となりました。新規導入は8月2例、9月0例でした。順次投与を開始する予定です。クロザピン通院専門外来も開設しております。



## 認知症医療、こころのリスク外来

### 〈認知症医療〉

認知症の患者様は高齢であることから、様々な合併症をお持ちの方が多くおられます。また、アルコール問題の後認知機能が低下することや、さらに身体疾患に併発した認知機能の障害は、若年の方にも見られます。

したがって、現在は80歳以上の超高齢の方と50～60代の若年の方に認知症が発症する傾向が多く見られます。身体的な問題については、法人内病院である三重中央医療センターと連携を図りながら、幻覚や妄想、不穏など認知症の周辺症状（BPSD）に対応しています。一般病院や介護施設において、BPSDの問題でお困りの場合はご相談ください。

### 〈こころのリスク外来〉

思春期・青年期はこころのリスク状態が高まり、さまざまなこころの病気を発症しやすいと言われています。当外来はこころのリスク状態を早期に発見・治療していくための専門外来ですので、お気軽にご相談ください。



## デイ・ケア案内



デイケアは南2階で月、火、水、金の9:30から15:30まで活動しています。

日中に通う場所を持つことで、生活リズムを整えたり、仕事や作業所に通う体力を獲得したりする効果があります。利用者の方々は、リハビリに向けて、プログラムに取り組んだり、他の方々と一緒に活動したりされています。とはいえ、何かに向かって進むだけがリハビリではありません。デイケアを利用しながら、のんびりと休憩を取っていただくことも大切な時間だとスタッフは考えています。

デイケアを利用される方は、1日あたり10人～20人です。10代から80代まで、幅広い年代の方々がいらっやいます。様々な世代の方が一緒に過ごしておられる姿が見られることも、デイケアの特徴の一つです。運動、ヨガ、レクリエーションゲーム、コミュニケーション、SST、カラオケ、アート等様々なプログラムがあり、それぞれの方のニーズに合わせて活動いただいています。病院のホームページや、外来に月間プログラムがありますので、どうぞご覧ください。



調理プログラムを再開しました



デイケア夏祭りで、わた菓子作りをしました。

ホームページに「デイケアでの感染予防プログラムの学びと実践の取り組みについて」を掲載しています。

デイケア案内、プログラム表については、こちらをご覧ください。



## 栄養コラム



### 質の良い睡眠のために食事からできること

『秋の夜長』という言葉もありますが、夜更かしをしてはいませんか？睡眠時間はしっかり取れていますか？適切な睡眠の目安として、朝起きたときに体が休まった感覚《休養感》があることが大切です。寝る直前の食事や夜食は、消化の為に胃腸が休まず、睡眠の質を下げちゃいます。(肥満にも繋がりがやすいです。)寝る3時間前、遅くとも夜8時までに食事を済ませましょう。また、コーヒーや緑茶に含まれるカフェインは覚醒作用・利尿作用があるため、夕方以降の摂取は控えるといいでしょう。良い睡眠のために体内リズムを整えることも重要です。朝昼夕の規則正しい食事を心がけましょう。休養感の低下は健康状態にも関わるため、食事や生活リズムを見直して、質の良い睡眠を目指しましょう。